

平成27年度 第2回学校評議員会記録

- 1 日 時 平成28年2月3日(水) 15:00~16:10
- 2 場 所 宮古高等学校小会議室
- 3 参加者 学校評議員 4名
校長・事務長
(全日制) 副校長・総務主任・教務主任代理・生徒指導主事・進路指導主事
(定時制) 副校長・教務主任・生徒指導主事 計 14名
- 4 記 録 (進行 千葉副校長)

- (1) 開会のことば (千葉副校長)
- (2) 自己紹介 (省略)
- (3) 校長挨拶 (本年度の学校運営について)

日頃より本校教育活動に対するご理解とご協力を頂いていることについて、各学校評議員の方々への感謝の意が述べられた後、本年度の学校運営の説明があった。また、今回示された高校再編計画(案)について述べられ、少子化問題は宮古高校においても重要な事柄であり、平成28年度の定員を満たすことについても厳しい状況が考えられることが述べられた。こうした状況の中において、今後はさらに学校教育の重要性が増すことになり、各学校評議員の方々のお考えも十分に踏まえながら、本校の学校教育に活かすべく皆様の忌憚のないご意見を頂きたい旨が述べられた。

- (4) 学校概況説明 (全日制副校長、総務主任)

資料のとおり

その他:被災認定されている生徒数、仮設住宅からの通学者ともに微減の状況にあること、欠席者数、保健室利用数、カウンセラー相談件数が震災後に大幅に増加しており、現在減少傾向にあるものの、減少幅が小さいこと等が説明された。

学校評価については総務課より説明があり、生徒・保護者・教職員とも共通して家庭学習時間が不十分と感じていること、学校に対する評価は概ね肯定的で高い評価ではあるが、中堅学年となる2学年では毎年評価度が低くなる傾向にあること、教職員は100%が魅力ある学校と感じているが、学習環境の整備に課題を感じていること等が示された。

- (5) 学校概況説明 (定時制副校長)

資料のとおり

その他:進路については、就職は管内1名、県内1名、進学4名と全て進路希望が叶い、部活動においても、全国定時制通信制体育大会に剣道男子が個人で出場、卓球女子では団体3名(個人出場1名含む)が出場するなどの活躍が目立った。学校評価については、昨年度と比較するとマイナス評価が増えている傾向にあり、全体的に個別学習・服装・挨拶等の指導の在り方にマイナス評価が多いこと等が説明され、こうした部分をしっかり精査しながら改善に取り組む方向性も示された。

- (6) 評議員から

〔A 評議員〕教職員の学校内部評価について、学習環境整備関係が低い評価ということだが、具体的にはどのような部分を意味しているのか。

[全日制総務] 「学習環境の整備はよくなされている」というアンケート部分に対する肯定評価52%、否定48%の状況が説明され、環境整備の部分、施設設備等のハード面や教育内容・体制等のソフト面に課題を個々に感じていることが考えられ、具体的な内容に踏み込んだ調査項目ではないので詳細は不明な部分もあるが、全体反省会等で明らかになった課題も含め財政的な課題をクリアしつつできることから改善していきたい。

[A 評議員] 家庭学習に関して、生徒・保護者で低い評価となる背景には予算の問題（各家庭の経済的問題含）も存在すると感じることがある。

[B 評議員] PTA 活動全般が活発に行われているという評価が、保護者は高い評価なのに教職員が低めになっているのは、学区が広域となる関係か、保護者の価値観の相違の関係か、その他どのように受け止めているか。

[全日制総務] PTA 総会、PTA 研修旅行、オリンピア（飲料水（麦茶）提供活動）、宮高祭バザー、PTA 講演会、街頭指導（一声運動）、PTA 役員会、高P 連関係、その他 PTA 諸行事等への参加率が低いと総務課（事務局）が苦慮する部分を、教職員は PTA 活動全般が活発に行われていないと感じているのかも知れない。

[校長] PTA 活動について、高校では特殊事情みたいなものが存在し、総務課等特定の教職員だけが担当することが多く、他の先生方は PTA 活動状況について、あまりよく知らないという状況が、PTA 活動についての評価を低いものにしていくのかも知れない。

[A 評議員] 現在の高校生は、東日本大震災当時は小・中学生のそれぞれ何年生だったのでしょうか。

[校長] 現在の高校1～3年生は、震災当時小学5年生～中学1年生で、卒業式や入学式等で大きな影響を受けている生徒である。欠席、不登校、全校集会等で倒れる生徒等についても、もしかすると PTSD（心的外傷後ストレス障害）等、何らかの影響があるのかも知れない。

[A 評議員] 阪神淡路大震災の例も耳にすることがあるが、東日本大震災でのトラウマの少なかった子供たちについての、5年経過後の数値増加についてはどうか。

[B 評議員] 東日本大震災で津波を直接目撃した子供は、PTSD（心的外傷後ストレス障害）現象が急激に増加し、そこから微減している。当時は教科書、給食、制服等が間に合わずに、宮古市では入学式も遅らせ4月25日に統一実施し、部活動も避難場所を半分借りて実施した。その当時から5年が経過して、そのような経験が今になって倒れたりする子供の増加に関係しているのかも知れない。時々、津波注意報が出されると泣き出す生徒もいて生徒は様々なストレスを感じながらも頑張っているのかも知れない。

宮古高校の教育には感謝している。宮古高校は地域の憧れの学校。2016年は岩手国体の年でもあり、部活動の面でも宮古高校には頑張ってもらいたい。中堅学年となる2年生における中だるみは、中学においても同じ傾向である。高校再編関係での少子化問題は、宮古第一中学校でも、4月には40名減少となり、確実に少子化の波が押し寄せている。その上で魅力ある学校をめざし、宮古一中も頑張るので、宮古高校もともに頑張ってもらいたい。宮古市役所

が宮古駅裏移転の市議会決定をうけ、宮古高校と宮古一中が最も近く、交通量増加と安全確保の側面から、そのまま歩いて登校可能な高架橋、スクランブル交差点改良、生徒の活躍をその場に街頭掲示等、魅力アップの工夫と安全教育に行政も力を入れて頂きたい。

〔A 評議員〕市議会では、少子化対策として、大学進学したその後の宮古への U ターン、I ターンのための議論がなされている。就職先（働き口）等どのようにして戻れるかを、行政や私たち大人が工夫していかなければならないことである。大卒者を受け入れる企業援助（賃金面）しながら進路実現と、その先も考えなければならない。

〔C 評議員〕宮古には就職の場がない。私の息子も宮古に戻れないのはその理由からである。学業的には学校の先生方の指導で大丈夫なのだが、宮古に戻る受け入れ体制を整えることが重要である。宮古高校生徒の挨拶面は、生徒・保護者・教職員も肯定的に評価してある。東日本大震災の時、津波を見せないようにブルーシートで隠したことが思い出されるが、その時の子供たちが高校 3 年生になっていて感慨も一入である。

〔D 評議員〕宮高を卒業している長男がいても跡取りがいない後継者問題が、末広町商店街にはある。18 歳選挙権、平成 30 年度の市役所移転等、変化する宮古において、宮古一中・宮古高校の目の前に市役所があれば、街も活性化し良くなると思うが、交通量増加による交通事故等も心配され、何らかの手立てが必要となる。

〔副校長〕宮古高校における進路目標達成後の社会の在り方・指導の在り方という観点で、進路指導はどうあるべきか、進路課の立場でお願いします。

〔全日制進路〕今まさに受験指導はスタートしたばかりに過ぎず、これからが重要であると指導している。地元志向の強い生徒もいるが、戻ってくる場所（就職先）が少ないことが課題である。受け入れ先確保が必要である。大学で学んで地元に戻り、何か地元のために役立ちたい、貢献したいと考える生徒が増えてきている。岩手大学も三陸水産研究センターが釜石に開設されるが、宮古にも県立宮古短大の文系だけではなく理系関係も開設するとか、学びの場としても多くの機会が拡大することを望む。

〔定時制教務〕定時制においては、3～4 年生が自分の進路希望として、管内の就職希望者が必ず 1 人はいるので、宮古発展のためにも地元志向の在り方は継続させていきたい。東京、大阪の専門学校を希望して県外へ出ても、そこを辞めて宮古に帰ってくる生徒も多い。

〔校長〕地元に戻ってきたら、奨学金を返さなくても良い制度検討を宮古市長にも希望したが、そのような行政の立場からの政策も一つの方法であると感じる。

〔A 評議員〕地元で働けば税収入にもなり、そのような奨学金制度の在り方も政策として推進していきたい。

〔全日制生徒〕ボランティア活動について、一部の生徒ではあるが、生徒会やボランティア委員を通じて地域活性化のために活動もしている。

〔副校長〕図書館から本の読み聞かせボランティアについて、「みやっこベース」等を通じ

て宮古高校生徒が活動していると聞いている。見えない部分で多くの生徒が宮古活性化のためボランティア活動に関わっていることも考えられるので、何かあれば今後も情報提供も含めてお願い致したい。

(7) その他 (特になし)

最後に校長から各学校評議員の方々への感謝のことばが述べられた。今年度をもって学校評議員を終えられる方に対するお礼と共に、他の学校評議員の方々へは、来年度も引き続きお願いしたい旨が伝えられ、この会(学校評議員会)に限らず、いつでも遠慮なく、本校教育活動に関するご意見を、本校窓口(副校長)へお寄せ頂きたい旨が述べられ第2回学校評議員会を閉会した。

(8) 閉会のことば (千葉副校長)